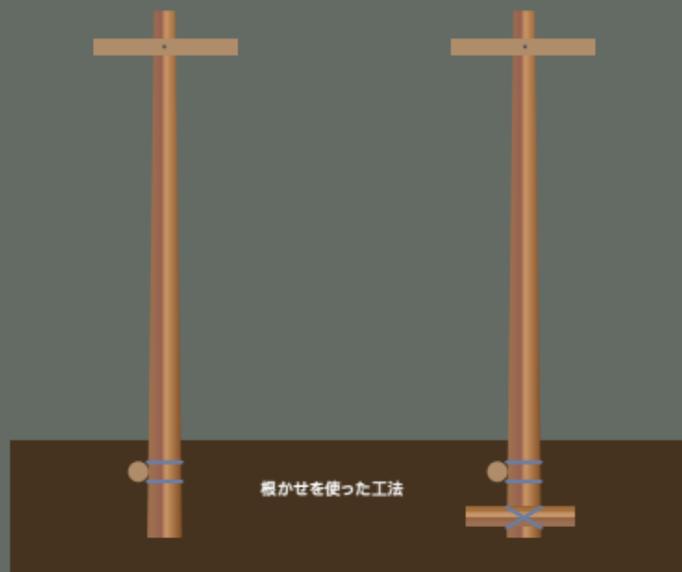


根かせを使った工法

Construction method using guy anchor logs

当初は、段階掘りで穴を掘削してから、電柱に根かせ丸太を取り付けて埋設する建柱工法が採用されていた。また、支線も根かせ丸太を取り付けて埋設されていた。この根かせを使った工法は、すべて人力で行われた。



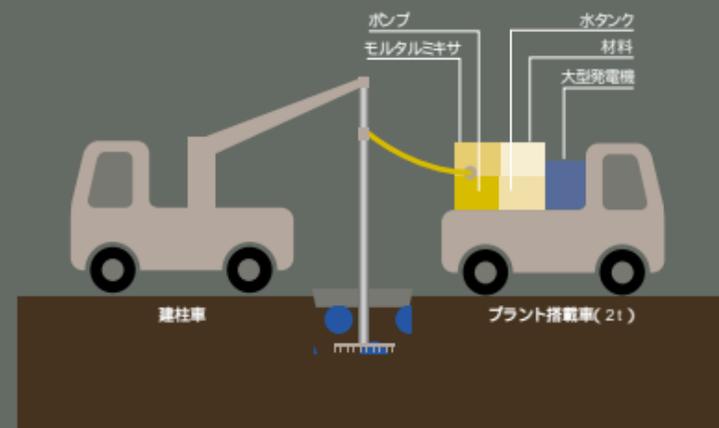
自立柱工法

Self-supporting pole construction method

土地利用の高度化に伴い、電柱を支える支線や支柱のための用地の確保が困難になった。1965年頃から支線や支柱に頼らない(自立柱)の開発が始まり、1986年から高荷重自立柱を本格的に導入した。

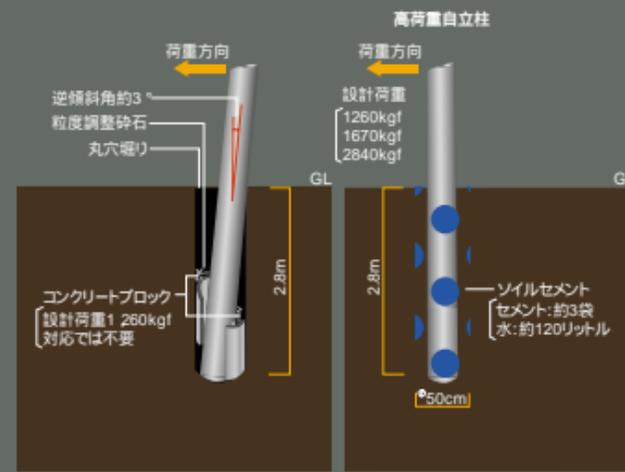
施工システムの概要

Overview of construction system



施工完了状況

Status quo of construction completion



建柱作業の機械化

Mechanized pole construction work

1960年代から建柱作業に穴掘建柱車が導入されたが、車両の通行できない場所では利用できなかった。ポールマイティ(簡易建柱機)やポールレーザ(電柱把持式穴掘建柱車)の開発によって、狭あい地や山間部などでの建柱作業の作業性や安全性が向上した。

穴掘建柱車の導入

穴掘建柱車は、油圧式の穴掘建柱装置と抜柱装置を備えた小型トラックである。電柱の建設作業の省力化と効率化を目的として開発され、1965年から本格的に導入している。



ポールマイティの開発

ポールマイティは、クローラ台車にクレーン式の吊り上げ装置を取り付けた簡易建柱機である。狭あい道路や不整地などでの建柱作業を安全かつ効率的に行うために開発された。従来4人の作業員が人力で行っていた作業を2人程度で実施できる。1988年以後全国に導入し、作業環境改善活動に貢献している。



ポールレーザの開発

ポールレーザは、1,250kgまでの電柱を把持できる穴掘建柱車である。リモコン操作できるため、安全性と作業性が向上するとともに、建柱作業のワンマン化と機械化を実現している。また、車輛転倒の事故を防止する過負荷防止装置を搭載している。1991年から導入し、建柱作業の新しい担い手として普及している。

